

大野市小池で発見されたシロテンコウモリ(コウモリガ科)の雌

下野 谷 豊 一 *

The first female of *Palpifer sexnotata niphonicus* (Butler) discovered in Koike, Ōno-shi, Fukui prefecture.

Toyokazu SHIMONOYA

「日本産蛾類大図鑑」によればシロテンコウモリ *Palpifer sexnotata niphonicus* (Butler) は、北海道、本州、四国、九州、対馬などに分布（台湾、中国に別亜種が分布）する稀種で、成虫は日暮時に活動するとされている。

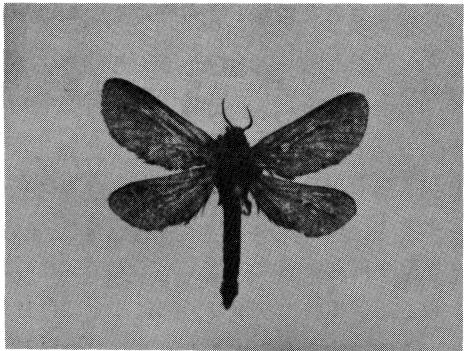
福井県下からは井崎氏(1971)により大野市池ヶ島(1ex. July 18. 1961 灯火に飛来したもの)と小浜市神宮寺(1ex. May 21. 1956 昼間飛翔中のもの)の2例が報告されている。

1984年の夏、大野市小池へ出かけた際、本種の群飛に遭遇し未知の雌を含むかなりの個体を得ることができたので以下に記録する。

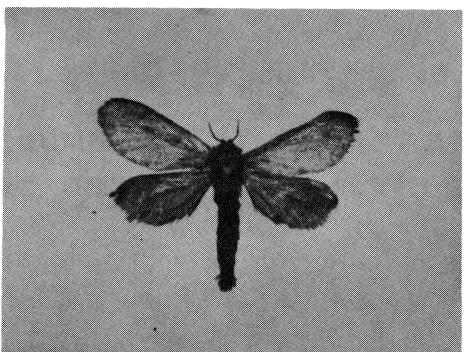
Palpifer sexnotata niphonicus (Butler)

シロテンコウモリ

大野市小池、13♂、1♀、Aug. 6. 1984、(3♂、
井上寛博士所蔵、3♂、黒沢良彦博士所蔵、7♂、
1♀、筆者所蔵) 前翅長、♂、11~13mm、♀11mm、



(シロテンコウモリ ♂)



(シロテンコウモリ ♀)

* 福井市宝永3丁目31-12

囲のところを飛び交っていた。

何が集っているのだろうかと近づいてよく見ると飛んでいても前翅表面の乳白色紋がよく目立ち、その大きさと合せて一見してシロテンコウモリらしいことは判断できた。登山道上には少し前に刈り取られたと思われる付近の下草が茶色く枯れて放置されており、その中のセリ科の一種（種名までは同定できなかったがウドに似たもの）と思われるものの上を中心飛び交っていた。これは大変と群れている真上から被せるようにネットを振りおろした。ネットを被せてから気づいたのであったが、もしかしたら未交尾の♀がいて、それを求めて♂が集っている配偶行動ではと考え静かにネットの底をつまんで持ち上げると、運が良いというのか、この考えは正しかったようで、ネットの入口近くの内側に交尾中のものが静止していた。千載一遇のチャンスと慌ててカメラを取り出し撮影したが、珍しいものに巡り合った興奮で手も震えていたのか、撮った写真はブレており良い出来ではないが参考までに示しておく。

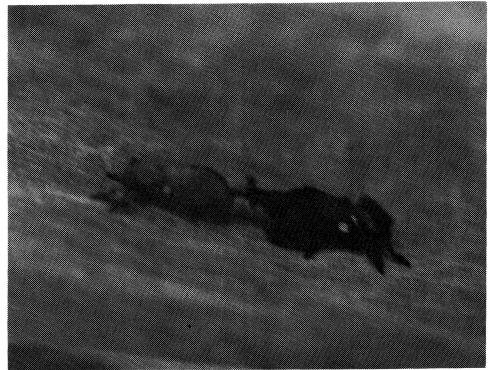
群れているものを一通り採集したあとも、枯れたセリ科と思われる植物のあたりに向って、登山道に沿って低く直線的に飛んでくるものが観察でき、採ってみると何れも♂であった。このようまだ♂が惹かれて集ってくるところをみると、この枯草のどこかに羽化直後の未交尾の♀がいるものと考え、枯葉のあたりを丹念に調べようと思ったが、雨が一段と強くなり確認できないまま中断せざるを得なかった。

以上が採集時の状況で、図鑑などには日暮のころ活動するとあるが、井崎氏の小浜市での採集例や、今回の観察からすると、夕刻だけでなく昼間活動することも確かである。

末筆ながら、今回のシロテンコウモリに関していろいろと御教示賜った井上 寛博士に深謝の意を表する。

参考文献

- 井崎市左エ門（1971） 福井県蛾類目録、小浜昆虫同好会
井上 寛、他（1982） 日本産蛾類大図鑑、講談社



交尾中のシロテンコウモリ（左側が♀）